

# かつしか郷土かるたの遊び方 ～競技大会用ルール～

平成30年3月29日  
かつしか郷土かるた普及・活用委員会

## 1 競技を始める前に

この「かつしか郷土かるた」は、子どもから大人まで世代を超えて、いつまでもふるさと葛飾に誇りを持ち、愛し続けて欲しいとの願いから生まれました。このかるたで遊ぶときは、勝敗ばかりにこだわるのではなく、葛飾の自然や文化、歴史をよく知り、ルールを守って、礼儀正しく、仲良く楽しく遊びましょう。

## 2 競技のやり方

### (1) 団体競技

3人が1組になり、2組で勝負します。

### (2) 個人競技

1人対1人で勝負します。

## 3 競技に必要な係

### (1) 進行係

進行係は、その大会の運営をよく把握し、競技がスムーズに行われるように努めます。人員の配置は、主たる者1人と副として数名を必要とします。(会場の規模により、人数を調整します。) 少人数の場合は、読み手が兼ねることもできます。

### (2) 読み手

会場に1人配置します。読み手は、競技者が取り札を取るとき、はっきりとした声で読み上げないと、トラブルを招く恐れがありますので注意しましょう。

### (3) 審判員

各コートに1人ずつ配置します。審判員は、試合を公平に判定し判断するように努めます。1試合が終了したら、その結果を記録表に記入し、競技者に確認してから記録係に提出します。

なお、競技を行う上での問題点、その他進行を妨げるような事態が発生したときは、速やかに拳手し、進行係に告げます。

### (4) 記録係

記録係は、審判員から預かった記録表を再度精査した後、ただちに対戦結果表に正しく転記します。

## 4 競技の準備

### (1) コートの広さ

コートの広さは、団体競技の場合、個人競技の場合によって異なり、下記のとおり設定します。なお、参加チーム数および会場の広さに合わせて、適宜変更することもあります。

#### **団体競技の場合**

1組(3人)対1組(3人)で向かい合って座ります。相手との間は90cm、各陣の幅は120cm以内とします。向かい合った真ん中に幅3cm程度の「中央線」を引いて、それを挟んで自分の向きにかかるたを並べます。【図1】

## 個人競技の場合

1人対1人で向かい合って座ります。相手との間は90cm、陣の幅は70cm以内とします。向かい合った真ん中に幅3cm程度の「中央線」を引いて、それを挟んで自分の向きにかるたを並べます。【図2】

### (2) 競技者の姿勢

- ① 左右のひざを「仕切り線」に対し常に平行を保ち、「仕切り線」から、手、ひじ、ひざ、肩等が越えないようにします。
- ② お尻を多少上げたり、ひざとひざの間隔を多少あけたり、つま先を立てたりしても構いませんが、前傾姿勢は45度以上を保つようにします。
- ③ 並べた札の上には頭がかぶさらないようにします。

## 5 競技の進行方法

### (1) 始める前に

- ① 審判員は場の中央に裏返しのまま札を置きます。
- ② 対戦チームは所定の位置に座り、姿勢を正して互いに礼をします。

### (2) 取り札の並べ方

- ① 進行係の合図でジャンケンをし（団体競技の場合は代表者同士で）、勝った側が札を裏返しのままよく切って22枚ずつに分け、ふたつの山にし、場の中央に置きます。ジャンケンに負けた側が先にどちらか一方の山を取り、勝った側が残りの山を取ります。
- ② 進行係の合図で札を表にし並べます。

団体競技の場合は、両陣3人がそれぞれ「札群」を分担して（中央が8枚、左右が各7枚）、自陣のコートに2段になるよう並べます。このとき、各段が11枚になるように並べます。なお、「札群」と「札群」との間隔は5cm以上にします。

個人競技の場合は、自陣のコートに3段になるよう並べます。各段には7枚ずつ並べ、残りの1枚は左右各段好きな場所に配置して構いません。

- ③ 札と札との間隔は、左右・上下とも1cm程度離します。相手チームとの札の間隔は「中央線」から1.5cm程度とします。（つまり、「中央線」は3cm程度の幅となります。）

### (3) 競技の方法

- ① かるたを並べ始めてから3分間を記憶時間とします。（記憶時間は適宜変更可。）競技者はこの間に札の位置を記憶します。記憶時間残り1分までは札の置き換えが可能です。
- ② 読み手は、はじめに「空札」を2回読みます。空札には、「区歌うたう 光と希望 力あり」の札を用います。これが予告となり、次に読まれる札から取り始めます。（この「く」の札も競技の途中で必ず読まれます。）

また、この「く」の札は最後の2枚に残さないようにします。

- ③ 上記の空札（「く」の札）が2回読まれた後、1枚目の札がまず1回読まれます（これを「本読み」と言います）。全てのコートで札が取られたことを確認したら、もう1回1枚目の札が読まれます（これを「空読み」と言います）。本読みと空読みの間隔は4～5秒程度取り、競技の状況によって、長さは適宜加減します。1枚目の空読みの後、2枚目の札の本読みが行われます。空読みと本読みの間隔は、約1秒程度とします。この方法で、3枚目、4枚目…と札が読まれていきます。

なお、なんらかの理由で競技がストップした場合は、直前に取られた札を1回空読みし、それを予告とし、競技を再スタートさせます。

- ④ 札が最後の2枚になったら、進行係はタイムをかけます。どちらの陣の札が残っても、場の「中央線」上に30cmの間隔を空け、自陣から見て右側の札を自陣側に向けて、並

べ直します。団体競技の場合は各組代表者1人を決めて、陣の真ん中に座ります。競技態勢が整ったら、進行係はタイムを解除します。

- ⑤ 読み手は直前に読んだ札を1回空読みします。それが予告となり、次に読む本読みで、競技者は札を取ります。その札を取った者が、残りの札を取ることができます。
- ⑥ 札を取るときは、押さえても、はじいても、押しても、引いても、飛ばしてもよいですが、試合の進行の妨げになるような取り方はしてはいけません。
- ⑦ 札に早く手が触れた方がその札を取ることができます。

#### (4) 採点方法

- ① 札は、1枚を1点として数えます。
- ② 同点の場合は、「く」の札を持っている側が勝ちとなります。
- ③ 団体競技の場合は次の「役札」があります。個人競技の場合はありません。  
なお、「役札」がすべてそろわない場合は1枚1点で数えます。

・川札	「い」「ろ」「つ」「な」「あ」	5枚そろうと10点加点
・園札	「ほ」「む」「す」	3枚そろうと5点加点
・人物札	「よ」「そ」「や」	3枚そろうと5点加点

## 6 審判員の役割

### (1) 審判員の心得

審判は、常に公平に判断を下すように心がけましょう。万が一、判定に苦慮したときは、速やかに進行係に合図をし、進行係と連絡を密にし、速やかに問題を解決しましょう。

### (2) 組み合わせ

試合開始の前に、読み札と絵札の組み合わせに間違いがないか確かめます。

### (3) 競技上の注意事項

- ① 競技中は札の位置を変えてはいけません。
- ② 競技中に札が動いた場合は、速やかに元の位置に戻します。戻す際は、お互いに声をかけ、きちんと元の位置に戻ったか確認しましょう。
- ③ 札が読まれるまでは、「仕切り線」から手、ひじ、ひざ、肩等を出してはいけません。
- ④ 札を取る際は、両手を使ったり、札にかぶさったりしてはいけません。
- ⑤ 選手の誰かが、読まれた札以外の札に手を触れたら「お手つき」となります。「お手つき」したら、すでに取った札の中から1枚を相手に速やかに渡します。(この時、「く」の札や「役札」を渡さないようにしましょう。) 団体競技の場合、チーム内の2人以上が「お手つき」しても、相手に渡す札は1枚です。ただし、両方のチームが「お手つき」した場合は、札を渡す必要はありません。

札を持っていない場合は、「借り」とします。(あらたに札を取ったら相手に渡します。あらたに取った札が「く」の札や役札の場合は、再度「借り」にすることができます。)

- ⑥ 札に複数の手が重なった場合は、一番下に手を置いた者が取ることができます。
- ⑦ 手が同時の場合は、読まれた札のある陣の側が取ることができます。

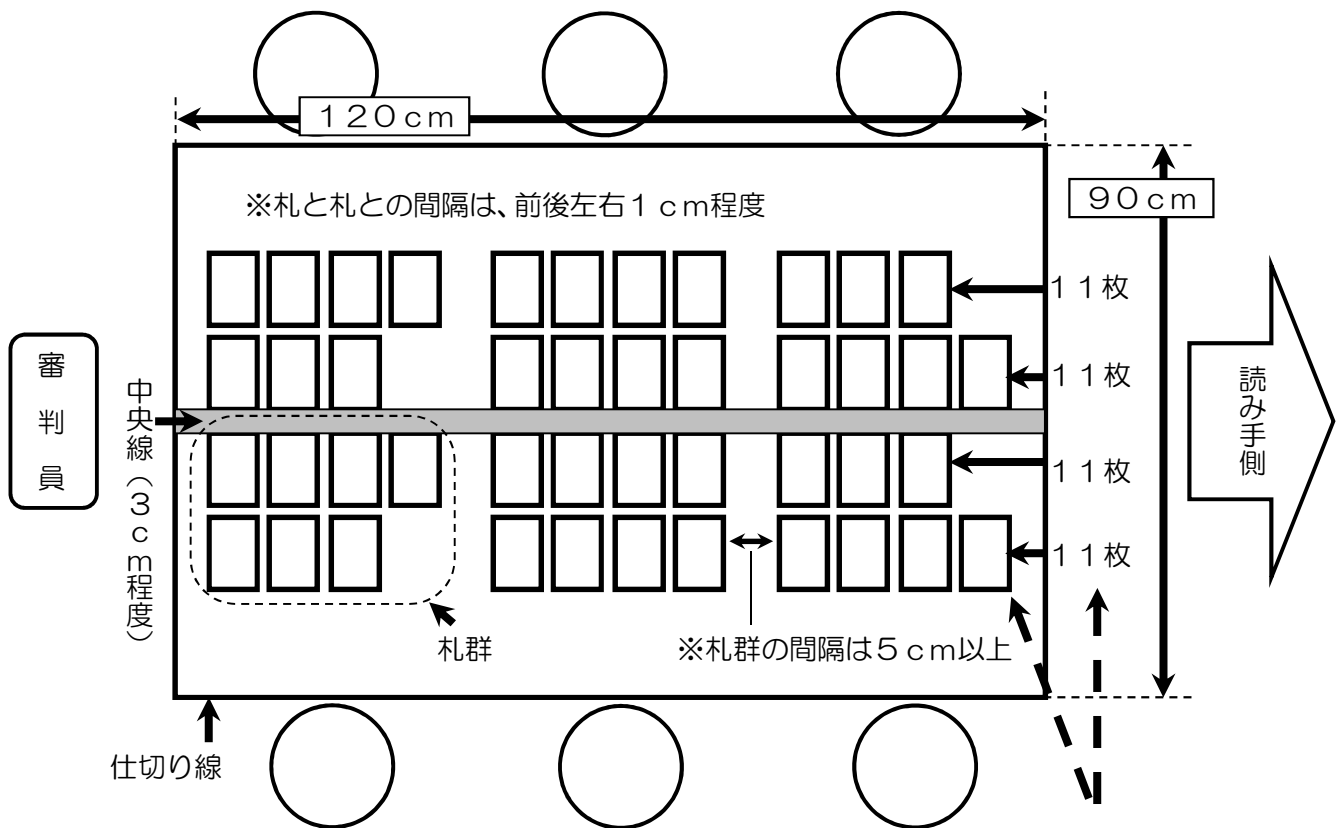
### (4) 競技中の留意事項

- ① 札の配置等の規定が守られているか。
- ② 競技者の姿勢等の規定が守られているか。
- ③ 礼儀作法が守られているか。

### (5) 試合続行不可能

試合途中で、一方の側が試合続行不可能と審判員が判断したときは、もう一方の側が勝ちとなります。なお、団体競技において交代要員は認められません。

【図1】団体戦コート及び札・札群の配置図



札群は中央が8枚、左右が各7枚となるように2段に並べます。  
このとき、各段が1 1枚になるように並べます。

【図2】個人戦コート及び札・札群の配置図

